

講義録レポート

講 座	証券アナリスト	科目①	経済	
目標年		科目②		
コース	1次秋試験方向け 科目別セミナー	回 数	1	回
収録日	2012 年 2 月 8 日			
講師名	小川 先生	講義録 枚数	2	枚 ※レポート 含まず
		補助資料 枚数	3	枚 ※表紙含む
講義構成	講義 (24) 分			
使用教材	①			
	②			
	③			
	④			
配布物	有 ☐ 無 ☒			
	①			
	②			
	③			
正誤表	有 ☐ 無 ☒ 枚			
備考				

証券アナリスト講義録	科目 経済	コース 秋向け 科目別セミナー	回数 1
------------	----------	-----------------------	---------

配布物	★ミニテスト：あり [] なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説	講師	小川 先生
	★実力テスト：あり [] なし	★その他のレジュメ []		
	◇配布物なし			

テキスト
ページ

黒

板

内

容

1次 秋向け科目別セミナー

経済

<各分野の概要>

配点ウエイト

第1問 ミクロ経済学

27%

第2問 マクロ経済学

39%

第3問 金融論

14%

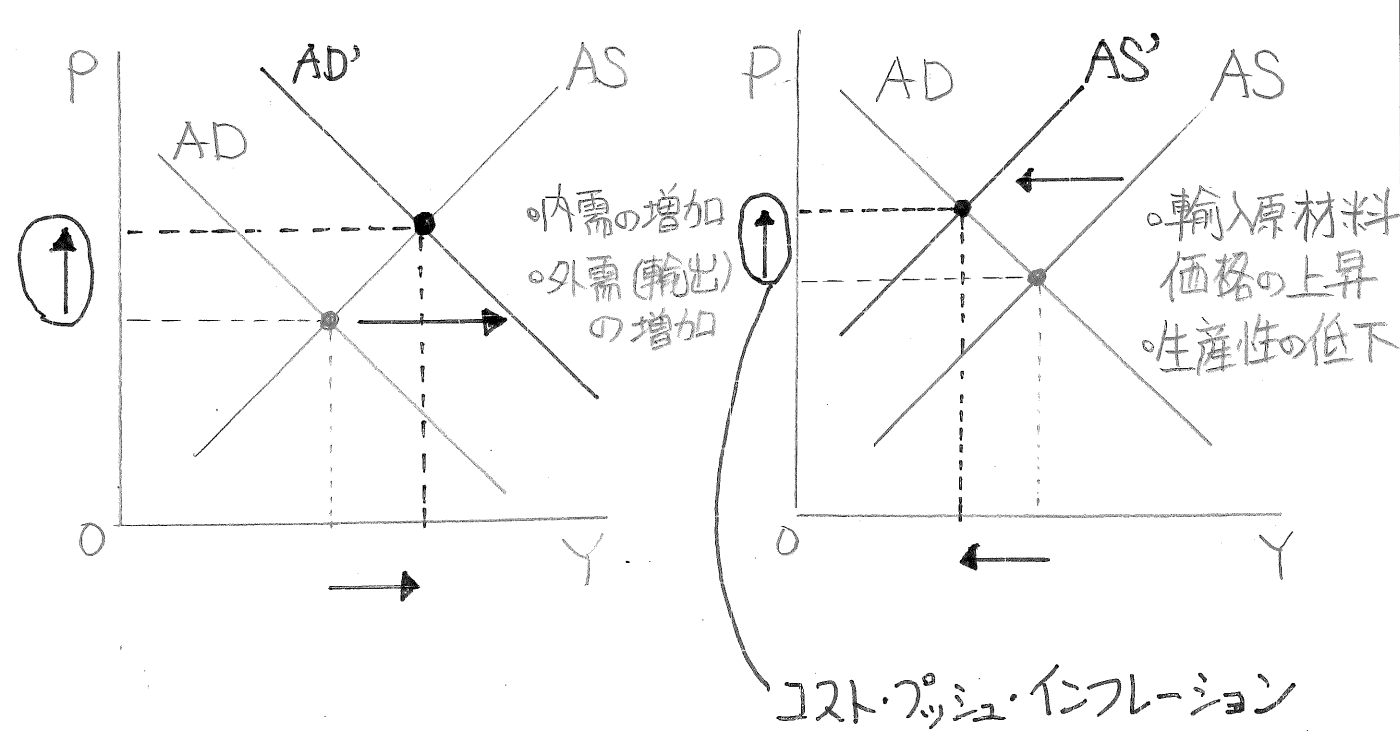
第4問 国際金融論

20%

} 66%
($\frac{2}{3}$)

証券アナリスト講義録	科目 経済	コース 秋白け 科目別セミナー	回数 1
------------	-------	--------------------	------

配布物	★ミニテスト：あり [] なし ★実力テスト：あり [] なし ◇配布物なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師 小川 先生
-----	--	--------------------------------------	----------

テキスト ページ	黒板内容
	＜具体例＞ AD-AS分析 ・インフレーション（物価上昇） （総需要の拡大） （総供給の減少）  左図（総需要の拡大）： 縦軸：P（価格） 横軸：Y（産出量） 曲線：AD（初期総需要）、AD'（拡大した総需要） 交点：AS（初期総供給）との交点から、価格（P）が上昇し、産出量（Y）が増加する。注釈：内需の増加、外需（輸出）の増加。 右図（総供給の減少）： 縦軸：P（価格） 横軸：Y（産出量） 曲線：AD（初期総需要）、AS'（減少した総供給） 交点：AS（初期総供給）との交点から、価格（P）が上昇し、産出量（Y）が減少する。注釈：輸入原材料価格の上昇、生産性の低下。 両図を括弧で結ぶラベル：コスト・プッシュ・インフレーション

1 次秋向け科目別無料公開セミナー

1 次経済

TAC証券アナリスト講座

経済担当：小川

はじめに — 1 次経済本試験の概要

- 試験時間は 90 分、90 点満点。
- 問題数は概ね 55 問程度。すべて選択問題（4 択または 5 択）
- 大問は 4 つ。配点ウェイトは以下の通り。

【大問別の配点ウェイト】 新プログラム試験以降

	19 年		20 年		21 年		22 年		23 年	
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
第1問 ミクロ経済学	19%	20%	24%	26%	27%	27%	27%	27%	27%	27%
第2問 マクロ経済学	43%	44%	40%	38%	39%	39%	39%	39%	39%	39%
第3問 金融論	20%	16%	16%	16%	14%	14%	14%	14%	14%	14%
第4問 国際金融論	18%	20%	20%	21%	20%	20%	20%	20%	20%	20%

- 第 1 問（ミクロ経済学）は、平成 19 年春から始まった新プログラム試験で初めて導入されました。配点ウェイトはしばらく上昇しましたが、ここ最近は安定しています。
- 最も配点が高いのは第 2 問（マクロ経済学）であり、毎回約 4 割を占めています。
- 第 3 問（金融論）は、配点は高くありませんが、個別の知識を覚えておけば対応できる問題が多いので、ある程度高得点を確保したいところです。
- 第 4 問（国際金融論）では、国際収支や為替レートに関する仕組みや計算問題が多く出題されています。

各分野の概要

① ミクロ経済学

- 個人や企業の経済活動についての意思決定（＝選択）や、財やサービスが取引される市場の役割とそのメカニズムについて学習します。
- キーワードとしては、需要曲線、供給曲線、市場均衡、消費者行動、企業の生産活動、不完全競争市場（独占、寡占）、余剰分析、市場の失敗、等が挙げられます。
- さらに、異時点間の効用を最大化する個人による「将来の消費＝貯蓄」の決定（異時点間消費理論）、将来の結果が不確実な状況での選択（不確実性下の選択）が取り上げられます。
- 他の経済主体の行動を勘案して意思決定が行われるケース（ゲーム理論）や、情報が十分に行き渡っていない場合の意思決定（情報の経済学）も試験範囲に含まれます。

② マクロ経済学

- マクロ経済学とは、一国経済を巨視的な（マクロな）観点から眺めて、その仕組みを分析する分野であり、一国全体の経済、金融が分析の対象になります。
- 国民所得統計（GDP）、IS-LM 分析、AD-AS 分析（総需要・総供給分析）、フィリップス曲線、経済成長理論、等が取り上げられます。
- マクロ経済学は、本試験における配点ウェイトが最も高く（約 4 割）、続く 2 分野（金融論、国際金融論）の基礎にもなるため、幅広く学習しておく必要があります。

③ 金融論

- 金融論では、金融取引の機能・仕組みや金融システムなどが取り上げられます。
- 日本の金融市場（短期金融市場、長期金融市場）に関する知識も求められます。
- 日本銀行が行う金融政策も出題範囲になっています。金融政策の運営方法やマネーサプライ、貨幣乗数、準備預金制度、等が取り上げられます。
- 政府も金融活動を行っています。日本における国債発行・流通の仕組み、財政赤字の問題点なども試験範囲です。

④ 国際金融論

- 国際金融論では、国際収支や外国為替レートの見方、理論的な決定要因の学習が出題の中心になります。
- 実質為替レート、金利平価説、購買力平価説、等の考え方と、それらを応用した理論モデルが紹介されます。
- 国際金融論では計算問題のウェイトが高いため、なるべく多くの問題にあたって計算のパターンに慣れておく必要があります。

秋試験対策について

- 本試験問題の大半を占めるミクロ・マクロの経済学に関する問題では、背景にある経済学の仕組み・考え方を理解しておく必要があります。過去問題を「見ただけ」では、本試験で問われ方を少し変えられただけで対応できなくなる可能性があります。背景にある経済学の考え方を理解しながら、様々なパターンの問題演習をこなしていけば、選択肢の正誤を容易に見極めることができるでしょう。
- 上記のような方法は、すべての試験範囲について当てはまる訳ではありません。金融論の分野では、日本の金融市場や制度面に関する知識が求められます。このあたりは事実関係を覚えておけばある程度対応できるので、経済学の基礎から掘り返して理解する必要はなく、それほど学習時間をかけなくても良いでしょう。試験対策には自ずと「緩急のつけ方」があると考えられます。
- 今年の秋試験での合格を目指されている方は、残り時間は長いようで短いと思います。是非 TAC の試験対策講座をご活用頂き、合格までのペースメーカーとして頂ければ幸いです。